

2013/03/17 礼拝メッセージ 近藤修司 牧師

主 題：信仰の成長を目指して11 : 善行における成長  
 聖書箇所：ピリピ人への手紙 4章8-9節

私たちはこれまで「信仰の成長を目指して」というテーマで、どうすれば私たちの信仰が成長するのか、そのことについてみことばを学んでいます。

あなたの信仰が成長するために絶対に忘れてはならないことは、主のみことばに対して従順であることです。そのことを私たちは繰り返し学んで来ています。主に対して従順であることが成長の絶対条件であると学びました。また、私たちが従順に歩み続けていくためには希望を失ってはいけないと見ました。私たちはイエスにお会いするその日を覚えながら今日をしっかりと生きることです。あなたのクリスチャンとしてのこの地上での歩みは決して無駄ではない、そのすべてをご存じである主があなたに相應しい報いを与えてくださるから、その日を待ち望みながらしっかりと今日歩いて行きなさいと教えられました。また、パウロは私たちに「喜びを持って生きることができる」、「寛容において成長し続けることができる」、また、「神の平和を持って生きることができる」と、そのことを教えてくれました。確かに、この喜びも寛容も平安も、これらを持って生きている人たちは信仰において成長している人です。信仰において成長している人たちはいつも喜び、人々が見ていて「この人は本当に寛容な人だ」と言うし、そして、神の平安を持ってどんな時でも主に信頼をおいて生きています。

確かに、彼らは信仰において成長した人たちです。しかし同時に、神はあなたに対して、あなたもそのような人に変えられていくということを約束しています。あなたがそのような人としてこの世にあって歩むことができると約束しています。でも、そのためには、どのように生きていったら良いのか、どのように歩いて行くべきなのか、そのことを学ぶことが必要であり、私たちはこれまでそのことを学んで来たのです。どうすればいつも喜び続けていくことができるのか？どうすれば寛容さにおいて成長していくのか？どうすれば平安を持って歩み続けていくことができるのか？パウロはそのことを教えてくれました。

今日、私たちが見ていくのは4章8節です。8節の最初に「最後に、」と記されています。つまり、ここからパウロは今まで話して来たことの結論を述べようとするのです。私たちは期待をもってこの8節と9節を見ていきたいと思えます。ピリピ4：8-9「最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称赞に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。：9 あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。」。

ここを見ると、私たちは二つの命令に気付きます。一つは、8節の「心を留めなさい」、二つ目の命令は9節の中程にある「実行しなさい」です。この二つが8節と9節でパウロが命じることです。「このようにありなさい」と、そのようにパウロはこのピリピの読者たちに、そして、今の私たちに対しても命令を与えています。今からこのことを見ていくのですが、なぜ、パウロは最初に「このように心に心を留めなさい、心を支配され続けていきなさい」と話して、その後「実行しなさい」と行ないについて話をしたのでしょうか？彼は目的をもってこのように記したのです。人の行動は心によって左右されるからです。心が正しいなら正しい行ないが生まれます。ということは、心が正しくなければ正しい行ないは生まれて来ないということです。みことばを見たときに、心が正しいと正しいことば、正しい行ないが生まれると教えています。逆説的に言うなら、心が正しくなければことばも正しくないし、行ないも正しくないのです。

「ことば」に関して主イエスはこのように言われました。マタイの福音書12：34「まむしのすえたち。おまえたち悪い者に、どうして良いことが言えましょう。」。イエスは非常に厳しいことを言われました。「どうしてあなたたちに良いことが口にできようか？」と言われるのです。その理由は「心に満ちていることを口が話すのです。」とあります。あなたたちが良いことを話せないのはあなたたちの心が良くないからだと言うのです。また、心が良くないに行ないにまで影響を及ぼします。イエスはマルコの福音書7：20-23でこのように言われました。「また言われた。「人から出るもの、これが、人を汚すのです。：21 内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、：22 姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、：23 これらの悪はみな、内側から出て、

人を汚すのです。」と。このような悪、間違っただけでなく、これらすべての原因となっているのは私たちの心であるとイエスは言われたのです。

悪い行ないは私たちの内側から出て来る。だから、世の中の宗教は私たちの行動を少しは変えることはできても、悲しいことに、私たちの一番の問題である心を変えることはできないのです。それができるのは創造主なる真の神であり、主イエスだけです。私たちの問題は心が変わることです。心が変われるなら、私たちのことばにおいても、行ないにおいても、これまでになかった素晴らしい結果がそこにもたらされるからです。ですから、確かに、私たちの心に問題があるとパウロはここで教えているのです。心が大切であると…。心の大切さについて、今から二人の人物を通して見ていきます。いかに心が大切か、いかに心を守ることが必要か、見ていきましょう。

#### 例 イスカリオテのユダ ルカ 22 : 47 - 48

一人目はイスカリオテのユダです。主イエス・キリストを裏切った人物です。最も哀れで、最も愚かな罪人だと言うことができます。なぜなら、彼自身は罪の赦しの代わりに永遠の滅びを選択したからです。天国の代わりに地獄を選択したのです。主の赦しがあることを見て、聞いて、そして、ひょっとしたら彼自身も口にしたかもしれません。しかし、その大切な救いを彼自身選択しなかったのです。彼は永遠の滅び、地獄を選択したのです。非常に悲しいことです。このイスカリオテのユダのことを見るときに、こういうことばが出ています。「サタンが入った」と。実は、2回出て来ます。

#### (1) 祭司長たちと宮の守衛長たちと、どのようにイエスを引き渡すかを相談しているとき

ルカ 22 : 3 - 6 に「さて、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンが入った。:4 ユダは出かけて行って、祭司長たちや宮の守衛長たちと、どのようにしてイエスを彼らに引き渡そうかと相談した。:5 彼らは喜んで、ユダに金をやる約束をした。:6 ユダは承知した。そして群衆のいないときにイエスを彼らに引き渡そうと機会をねらっていた。」と、3節に「ユダに、サタンが入った。」とあります。非常に恐ろしいことです。そして、この後ユダはイエスを引き渡す機会を探り始めるのです。マタイ 26 : 14 - 16、マルコ 14 : 10 - 11 に並行記事があります。

#### (2) 最後の晩餐のとき

ヨハネの福音書 13 : 27 をご覧ください。「彼がパン切れを受けると、そのとき、サタンが彼に入った。そこで、イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、今すぐしなさい。」とあります。弟子たちが最後の晩餐の席に着いていました。そこでイエスが「あなたがたのうちのひとりがわたしを裏切ります。」と言われたのです。弟子たちは当惑しました。「いったい、だれのことだろう…？」と。イエスが言われたことは26節「それはわたしがパン切れを浸して与える者です。」それからイエスは、パン切れを浸し、取って、イスカリオテ・シモンの子ユダにお与えになった。」です。そして、ご存じのように、ルカの福音書 22 章にある通り、イエスがゲッセネマの園にいたときに、群衆がイエスを捕えにやって来るのです。その先頭に立っていたのがイスカリオテのユダです。ルカ 22 : 47 - 48 「イエスがまだ話をしておられるとき、群衆がやって来た。十二弟子のひとりで、ユダという者が、先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようとして、みもとに近づいた。:48 だが、イエスは彼に、「ユダ。口づけで、人の子を裏切ろうとするのか」と言われた。」、友としての挨拶ですが、イエスはユダにこのように言われたのです。この並行箇所はマタイ 26 : 21 - 25、マルコ 14 : 18 - 21、ルカ 22 : 21 - 23 です。

#### ◎ユダはどうしてこのような行動を取ったのか？

皆さん良くご存じの話です。イスカリオテのユダがイエスを裏切った、いったい、どうしてこのようなことが彼に起こったのでしょうか？なぜ、彼はこんなことをしたのでしょうか？実は、それに関してヒントとなるのがヨハネの福音書 13 章に書かれています。13 : 2 に「夕食の間のことであった。悪魔はすでにシモンの子イスカリオテ・ユダの心に、イエスを売ろうとする思いを入れていたが、」とあります。気付かれませんか？サタンがすでにイスカリオテ・ユダの心の中に働いて、そのような思いを与えていたとあります。そして、彼はそれを行動に移したのです。だから、サタンはユダの心に入ってこのようなことを為すように働いたのであって、私たちは自分自身の心を守る必要があることがよく分かります。しかし、このことを聞いてある人はこのように言われるかもしれません。「でも、イスカリオテのユダはクリスチャンではなかったのでしょうか？だから、彼には「サタンが入る」、つまり、サタンによって支配されることも可能だったから、このようなことは彼がイエスを信じていなかったから起こったのでしょうか？」と…。確かに、その通りです。イエスを信じていない人たちがこのような形でサタンに用いられることは多々あります。しかし、それならクリスチャンである私たちがサタンの誘惑を受けることはないのでしょうか？誘惑を受けます。サタンに用いられることもあるのです。そのことを知ってパウ

口はこのような警告を与えています。

### ◎クリスチャンもサタンの誘惑を受けることがある

**パウロの警告**：エペソ 6：11, 12 「悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武器を身に着けなさい。：12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」、私たち信仰者の戦いは、サタンに対するもの、悪霊に対するものであると言います。ですから、間違いなく、我々信仰者も彼らの影響を受けることがあるのです。更に言うなら、彼らに用いられてしまう可能性があるのです。もしかすると、皆さんは驚かれるかもしれません。今から説明して行きます。その前に、パウロが言ったことをペテロ自身も言っています。

**ペテロの警告**：I ペテロ 5：8, 9 「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。：9 堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通して来たのです。」と、ペテロは自分たちよりも遥か昔の信仰者たちも、また、今、私たちと同じ時代に生きている者たちもこのような戦いを経験していると言うのです。この戦いは初代教会の時代に終わったのではありません。約2000年経った今でも同じようにこの戦いは続いています。

ですから、次のようなことが言えるのです。信仰者であるあなたも警戒しなければいけないということです。そのために二人目の人物を紹介します。

### 例 ペテロ マタイ 16：23

これも皆さんがよくご存じの記事です。ですから、だれのことかすぐに分かるでしょう。あるひとりの信仰の勇者が次のような告白をしました。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」（マタイ 16：16）と。ペテロのことです。さて、ペテロのこの告白の後、イエスは弟子たちに対して、これから何が起こっていくのかをお話しになりました。これから自分はエルサレムに行つて長老や祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして、三日目によみがえらなければならないことを教えたのです。まさに、そのためにイエスは来られそのことを為さったのですが、そのことを話した時に、ペテロが何をしたのか思い出してください。マタイ 16：22 「するとペテロは、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。『主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。』」と。恐らく、ペテロのこのことばを聞いて別に不思議に思わない人はたくさんいるでしょう。ペテロは主のことを思って「そんなことがありませんように」と励ましたのです。

ところが、主が彼にどのように答えられたのか思い出してください。23節「しかし、イエスは振り向いて、ペテロに言われた。「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」、今、私たちが見ているのは信仰の勇者であるペテロのことです。先程、ペテロは弟子たちの前で「あなたは、生ける神の御子キリストです。」と、イエスがいったいだれなのかを告白した人物です。しかし、そのすぐ後で、主イエス・キリストはペテロに対して「下がれ。サタン。」と言われたのです。ペテロ自身がサタンだと言っているのではありません、悲しいことに、ペテロはサタンの代弁者になったのです。イエスは面白いことを言われました。「あなたはわたしの邪魔をするものだ。」と。つまり、サタンがしようとする働きが明確になったのです。サタンは常に神のみこころに妨げをもたらすのです。神のみこころが成ることを邪魔するのです。しかも、「あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」と言われました。神のみこころよりも人間の考えを優先すること、神が喜ばれることよりも人間が喜ぶことを考えること、それは間違っていると主は言われたのです。

大切なところであり、私たち自身、よく考えなければいけないことです。かつて、私たちの教会にあっても、みことばが何と教えているかということよりも、一般的な常識で物事を考えて判断しようとするような考えを持った人たちがいました。そうなればそれはもう教会ではありません。私たちは人間の考えや常識などで、正しいことが何か、何が神の前に良いことなのかを判断しません。この教会は神の持ち物であつて、神が私たちに命じている通りに「これがわたしがあなたたちに命じることだ。これに従いなさい。」と、私たちは神のおことばに立つのです。そうでないならもう教会を止めなければいけません。イエスがペテロに対して言われたことははっきりしています。主のみこころではなくて人間の考えを尊重したことです。ペテロは確かに、愛するイエスが死んでしまうなんて考えられないと、人間的にそのように思ったのでしょうか。しかし、主のみこころに反することはサタンの代弁者としてサタンに用いられることになるということです。

皆さん、考えさせられます。私たちはこのことを覚えなければいけません。それは私たちの責任は、

神が言われていることにしっかりと立たなければいけないということです。それが私たちの信仰です。ときに人間的な思いや考えが出て来ることがあっても、私たちはすべてみことばに照らして、神が何とされているのかという、そこに立たなければいけないのです。そのような者として私たちは生まれ変わったからです。かつての私たちは自分の考えに従って生きていました。そういう人は死んだのです。そして、生まれ変わった私たちは、主のみこころが何かを考え、それに従って行く者となったのです。ペテロは大変悲しいことを聞いたのです。イエスの身にこれから何が起こるかを聞いた時に動揺もしたでしょう。彼の人間的な考えが出て来たと信じます。しかし、それに対してイエスが言われたことは、「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」でした。私たちが思わなければいけないのは人のことではなくて神のことです。人間の考えではなくて神の考え、神のみこころです。だから、私たちは気をつけなければいけないのです。

パウロはこのような警告を発しています。Ⅱコリント 11 : 3 「しかし、蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、…」、パウロは創世記のアダムとエバの失敗を引き合いに出して、このレッスンをコリント教会の人々に教えるのです。パウロもエデンの園の出来事を知っていたし、アダムとエバが罪を犯したことも知っています。そして、このコリントの教会の人々も知っていました。ですから、それを引き合いに出してパウロが教えるのです。「万一にもあなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真実と貞潔を失うことがあってはと、私は心配しています。」と、なぜ、このようなことを言ったのでしょうか？このコリント教会には偽りの教師たちがいたからです。続く4節には「というわけは、ある人が来て、私たちの宣べ伝えなかった別のイエスを宣べ伝えたり、あるいはあなたがたが、前に受けたことのない異なった霊を受けたり、受け入れたことのない異なった福音を受けたりするときも、あなたがたはみごとにこらえているからです。」とあります。ですから、このように間違った教えを宣べ伝える者たち、偽りの教師たちがいたのです。パウロは「あのエデンの園にあってエバはサタンの偽りに耳を傾けてしまったから騙されて神の前に罪を犯した。あなたたちはそのようなことにならないようにと私は心配している。」と言うのです。

というのは、サタンがすることはどの時代であっても同じだからです。サタンは嘘つきであり、信者を惑わして神のみことばに疑いを抱かせようとするのです。そのような働きをしようとしている彼の手下たちがいっぱいいるのです。偽りの教師たちを用いてそのような間違いへと導くものたちが溢れているのです。そのような中であって、では、私たちはどうすればいいのか？パウロは「惑わされないために心を守っていくことが必要だ」と言うのです。主に喜ばれる歩みを為していくために心が正しくなければなりません。どんなにすばらしい働きをしても、心が伴っていなければ、主はその働きをお喜びになりません。礼拝に来ていても、もし、皆さんの心が主を拝するのにふさわしい心でなければ、その礼拝を神はお喜びになりません。神の関心は皆さんの心です。どんな思いをもって神を崇めているかどんな思いをもって神の前に立っているかです。

マタイ 15 : 8には、預言者イザヤが偽善者たちに対して記したことばを引用して、イエスはまさにその通りのことが起こっているとされたことが記されています。「『この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている。』」と。つまり、イエスの関心は私たちの心だと言うのです。信仰者の皆さん、しっかり覚えてください。私たちはどちらかと言うと何をしているかに関心がいきます。「これだけの働きをしているからきっと神さまは喜んでくださっているだろう。」「これだけ献身的な奉仕をしているから神はお喜びになっているだろう。」と。問題はあなたの心です。心が正しければ、どんな小さな働きでも主は喜んでおられます。問題は心から喜んでその働きを為しているかどうかです。心を正しく保ち続けていくこと、そのことが大切だと言います。

今日のテキストにもう一度戻ってください。ピリピ 4章8節です。パウロはここで私たちがどのように歩んでいくべきかを教えた後、結論として「そのようなことに心を留めなさい。」と言います。「あなたの心がいつも正しいこと、そのような思いがあなたの心を満たし、そのような思いをいつも持ち続けていきなさい。」と言うのです。この「心を留める」という命令は「何かについて熟考する、じっくり考える、その考えにふける」という意味です。ただ聞くだけではなく、ゆっくり考えるのです。なぜなら、自分がどのように生きていくべきかを知るためです。ですから、まず私たちは正しいことに心を留めることが必要です。正しいことに心を留め続けていくことが必要です。あなたの心がいつもこのようなことによって支配され続けていくことが必要です。

では、「そのようなこと」とは何でしょう？今から六つのことを見ていきます。繰り返しますが、あなたの心が正しければ正しい行ないが生まれて来るのです。だから、心をしっかり正しく保ちなさいとパウロは言います。

## ☆信仰者が常に考え続けることとは？

### A. 心を守る 8節

「最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。」

#### 1. 「すべての真実なこと」

つまり、嘘、偽りのないことです。真実、真理がいつもあなたの心を満たしているようにということです。

#### 2. 「すべての誉れあること」

尊敬や敬意を払う価値がある。また、それに値するということです。つまり、この世のつまらない一時的なものではなくて、神の前に本当に価値あるもの、永遠に価値あるもの、そういうものにいつも心を向けていなさいということです。

#### 3. 「すべての正しいこと」

世の中が正しいと言うことではなくて、神が正しいと言われることです。

#### 4. 「すべての清いこと」

道徳的にきよいということのパウロは言っているのでしょう。

#### 5. 「すべての愛すべきこと」

神が愛されること、神が愛されるものを求めていきなさいと言います。

#### 6. 「すべての評判の良いこと」

称賛に値すること、誉められることです。つまり、良い行ないをすることによってこの世の人たちもそれを誉めます。例えば、親切であること、礼儀正しい、尊敬を払うことなど、これらはクリスチャンであろうとなかろうと関係なく称賛に値する善行です。良い行ないです。そのようなことに心を留めるようにと言うのです。私たちはこの地上にあって最高の市民であるべき、最高の社会人であるべきです。私たちのことばも態度もそうあるべきです。神は私たちが本当のキリスト者として正しく歩み続けていくことを望んでおられると、私たちは知っています。ですから、人々が私たちを見て、本当に誉めるような正しいこと、神がお喜びになること、そのようなことをしっかりと実践していきなさい、それらのことに心を留めていきなさいと言うのです。

今、私たちは六つのことを見ました。すべて形容詞ですが、ある人はこれは「主のご性質を一番簡潔に表わしたことばである」と言います。確かに、主イエス・キリストは、すべてにおいて真実で偽りがありませんでした。確かに、彼は尊敬に値する人でした。彼はすべてにおいて正しかったし、すべてにおいて清かったし、彼は神が愛されることを完璧に行ない続けました。そして、この社会にあっても、人々が称賛するようなことを行なっていました。最高の市民だったのです。ですから、確かに、この六つのことを見る時に、イエスはそういう人でありそのように歩まれた方であると分かります。

しかし同時に、この六つはみことばに従う生き方ではないですか？なぜなら、真実なものとは神のおことばです。神のおことばが真実、真理を教えてください。誉れのあること、敬意を払う価値のあるものは神がくださったおことばです。私たちはこれに最高の敬意を払います。なぜなら、神のおことばだからです。正しいことが何なのか？みことばに照らすなら分かります。清いこともみことばが教えてください。神が愛されることはいったい何なのか？みことばに記されています。そして、私たちが最高の社会人として生きていくために、みことばはどのように生きていくのかを教えてください。

最後に、ここで改めてパウロが教えることは今までと違ったことではありません。皆さん、是非覚えてください。神が私たちに求めていることは「神のおことばに従い続けて行きなさい」です。神があなたに示してくださるみこころに従い続けていくことです。私たち信仰者はこの地上におかれている間、このことを神の助けを頂きながらしっかりと守り続けていくのです。

そして、8節はこれで終わっていません。あと二つ記されています。「そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。」とあります。実は、この二つは形容詞ではなく名詞が使われています。しかも、面白いことにこれらは条件節が使われています。「もし、あなたたちがこのようなことをするなら…」というのです。なぜ、このような書き方をしているのでしょうか？恐らく、パウロは先に六つのリストを挙げて、これらがすべてではないとして後にまとめて言うのです。「あなたたちがこれから歩んで行く時に必要なことは、六つのことに加えて次の二つのこともしっかり守ることです。」と。7番目と8番目のことを見ましょう。

## 1. 「そのほか徳と言われること」

このようなことをいつも心に留めなさいと言います。「徳」とは「あなたの信仰が成長するために役立つこと」です。あなたが神を愛する者として成長していくために必要なことです。あなたが主を恐れるために必要なこと、それらをあなたの内にしっかりと蓄えていきなさいということです。ですから、徳と言われることを心に留めなさいと言うのです。しかし、「徳」とは自分の成長だけではありません。周りにいる兄弟姉妹たちの成長も当然考えます。信仰者の皆さん、あなたに与えられた一番大きな責任は、あなた自身がキリストにあって成長することです。「私よりもあの方が…、」と言うから問題が出て来るのです。神が命じておられることはあなたが成長することです。あなたが変えられ続けていくことです。しかし、あなたが変えられていく過程にあって、あなたは人々を助けていこうとします。彼らの信仰が成長するように助けていくのです。ですから、私たちは彼らの徳となること、彼らの成長に役立つことを為していこうとするのです。

ローマ15：2に「私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。」とあります。周りの信仰者のつまずきになっていませんか？みことばが私たちに命じることは、あなたの隣人の信仰が成長するために、彼の益となることを為していきなさいということです。また、エペソ4：29には「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」とあります。ことばでつまずきを与えていませんか？言わなくていいことを言ってしまったたり、ことばで人を傷つけてしまう、そのようなことがあってはいけないと言うのです。悪いことばをいっさい口から出すな！人の信仰の成長の妨げになるようなことを言うな！と非常に厳しいことをみことばは私たちに命じます。却って、私たちのことばを通して彼らが成長していく、そのようなことばを話しなさいと言います。

もう一箇所、Iテサロニケ5：11にも「ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」とあります。私たちの責任は、自分の信仰が成長するように主のみことばに従うことと、同時に、周りの兄弟姉妹たちの信仰の成長のために尽くしていくことです。そのことを神は望んでおられるのです。だから、それに役立つことをいつも考えなさい、そのことがあなたの心を支配し続けるように、どうすればこの兄弟を助けることができるか？どうすればこの兄弟の信仰の成長のために力になれるのか？と、そのことを考えるのです。

## 2. 「称賛に値すること」

そして、もう一つ「称賛に値すること」とあります。主が誉められることです。主がお喜びになることです。そのことを考えそれを選択しなさいと言います。これはピリピの教会に宛てた手紙ですが、パウロはまさにローマ人への手紙12：2でも同じことを言っています。「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」。パウロが私たちに命じていることは、私たちが考え方を変えていくことです。私たち信仰者が、いったい何が神の前に正しいのか、主のみこころはいったい何なのか、何をもって神を喜ばせることができるのか、そのことを考えてそのような選択をする者へと変わっていきなさいと言うのです。このピリピ人への手紙の中でパウロは私たちに「称賛に値すること」をいつも考えて、それを選択しなさいと言います。というのは、この条件節とはそういうことだからです。「こうすればこういうことになる」と教えるのですが、同時に、あなたがそのように歩んで行くことを期待しているのです。今見て来たように、あなたがあなた自身の信仰の徳になること、兄弟姉妹の信仰の徳になることを選択して行くなれば、主がお喜びになることをあなたが選択して行くなれば、主が喜ばれるだけでなく主の栄光があなたを通して現わされていくのです。主のすばらしさがあなたを通して明らかにされていくというのです。そして、あなたは主の証人として大いに用いられていくのです。

信仰者の皆さん、このような人へと私たちは生まれ変わったのです。私たち神によって救われた者たちは、このすばらしい神を世に証するために生まれ変わったのです。その目的を果たすために必要なことは何か？パウロが今日私たちに教えてくれました。「あなたの心を守る」ということです。あなたの心に間違ったものを入れてしまったら、必ず、間違った行動がそこから生じて来ると言います。神がお喜びになることがいつもあなたの心を支配しているように心を守っていきなさいと言うのです。徳になること、神がお喜びになること、そのことをいつも考え、そのことがあなたの心を支配し続けていくなれば、あなたはこの地上にあって神の栄光を大いに現わしていくと言うのです。そのような歩みを主があなたに望んでおられるのです。

今日、私たちが見たのは心の部分です。このようにあなたの心を守っていくなら、9節が教えるように、神が喜ばれる行ないがそこから出て来ると言います。どうぞ皆さん、神が喜ばれる行ないをしていきましょうと考える前に、「主よ。どうぞ、私の心を変えてください。」と、その祈りをもって主の前にへりくだることです。このような行ないをしなければいけない、あのような行ないをしなければいけない、このように生きていかなければいけない、これは必ずあなたの重荷になります。大切なことは「主よ。どうぞ、私の心があなたの前に喜ばれるものになりますように。私の心の隅々までご覧になっておられるあなたが、私の心を見て喜ばれるように、そのような心に私を変えていってください。ふさわしくない思いを除いてください。あなたがお喜びになる思いが私の心を支配しますように。」と願うのです。あなたの心が変わえられること、それが主に喜ばれる歩みをするために最も大切なことだと言うのです。

ソロモンはこのように言っています。箴言4：23「力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。」、しっかり心を見張りなさい、心が正しければ主が喜ばれる言動があなたから生まれて来ると言うのです。どうぞ、この一週間、心を吟味して、正しい心をもって神のすばらしさを現わしてください。主はあなたを用いてくださり、あなたを使ってご自身の偉大さを示してくださるのです。信仰者の皆さん、大切なのは「あなたの心」です。

#### 《考えましょう》

1. どうして心を守ることが大切なのでしょうか？
2. 心を守るためにはどうすればよいのでしょうか？
3. 主がお喜びになることを選択し続けるためには、どうすればよいのでしょうか？
4. あなたは今日からどのように歩いていく決心をされましたか？